

第6期（2021年度）事業報告

1. 理事会履歴

決議事項)

・2022年1月23日に理事会、2月16日に臨時社員総会をオンライン会議システム(Microsoft Teams)にて行い、SSCI-Netシステム再構築に関する実施計画が承認されました。

報告事項)

・毎月次事業報告

月末の定例会の時期に合わせて、事務局より報告書をメール配信で毎月報告致しました。

その他、News Letterにて四半期毎に財務面を含めた運営状況を報告し、必要な情報の共有化を行ってきました。

2. 協力医師よりの症例登録

・2021年度総数494件 : アレルギー性438件、非アレルギー性56件

(2016年度:701件、2017年度:564件、2018年度:574件、2019年度:451件、2020年度:593件、2021年度:494件)

3. 賛助会員企業の募集

・新規入会 1社 (2021年度退会1社)

2021年度末会員 賛助会員企業数=113社(1社増)、会費口数=152口(1口増)

*参考:第5期 賛助会員企業数=116社、会費口数=155口

4社4口減のため、2021年度開始時は112社、151口

・個別訪問は行わず、問い合わせに対してオンライン説明会を実施しました。

・広報活動

学会発表・雑誌掲載・講演会

✓ 第51回日本皮膚免疫アレルギー学会にて、松永理事長より「SSCI-Net 2020年度アレルギー性皮膚障害例のまとめ」を発表していただきました。

✓ 論文掲載:「SSCI-Net 症例情報に基づく職業性アレルギー性接触皮膚炎・アレルギー性接触蕁麻疹の原因と対策」、松永佳世子、日本職業・環境アレルギー学会雑誌28巻2号、25-37(2021)

✓ 巻頭言:「わが国における接触皮膚炎に関する取り組み」、矢上晶子、アレルギー

一の臨床 41 卷 11 号、1(2021)

- ✓ 9月30日日本化粧品工業連合会「安全性評価セミナー 初級編」の講演内で、SSCI-Net の紹介と成分パッチテストの推進の説明をしていただきました。
- ・ホームページへの掲載
 - ✓ 日本皮膚免疫アレルギー学会ホームページの有益情報欄に、SSCI-Net の活動の紹介と先生方への分析仲介について掲載していただきました。ホームページをご覧いただいた先生より、成分パッチテストの問い合わせをいただくようになり、掲載効果が感じられました。
 - ✓ 日本化粧品工業連合会のホームページに「一般社団法人 SSCI-Net のご協力のお願い」を周知情報として掲載いただきました。
 - ✓ 日本化粧品学会ホームページのリンクサイトに、SSCI-Net を追加していただきました。
- ・学会展示

皮膚科系関連学会の学術総会における展示（SSCI-Net 紹介コーナー開設）に関しては、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により行いませんでした。これまでも、展示の有用性が感じられず他の方法の検討が必要と考えておりましたので、第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会受付付近の広報スペースに広報チラシを設置しました。20部を設置し、9部お持ちいただきました。

4. 業務改善実績

- ・打合せや会議のオンライン開催の推進

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、定例会議および産学官の連絡会をオンライン開催とし、賛助会員勧誘のための説明もオンラインで実施致しました。
- ・システム再構築について

現在のシステムは、2016年に開発され Microsoft InfoPath を利用した古いシステムであるため早期の再構築を勧められていました。2021年7月に MS Azure VM のサービスが 2023年2月で終了するので、データの入れ替え費用が約 118万円となる旨の説明を受け、システムを再構築を早めることと致しました。9月より現システムの運営・管理を委託している（株）ソノリテと相談を開始し、現在のサーバ費用の軽減化、システムの動きの遅さの改善を要望として、システム再構築の実施計画と見積りを依頼しました。12月に実施計画と見積もりの提示を受けて、課題が解消される提案であることおよび見積りに関してキャッシュフローを含めた財務面の問題がないことから、理事会にて審議いただくことと致しました。その後、2021年度第1回理事会（1月23日）および臨時社員総会（2月16日）を経て、実施計画の承認をいただきましたので、2022年4月よりシステム再構築のプロジェクトを開始することと致しました。

以下に再構築後のシステムの概要を示しました。

■サーバについて

現行の仮想サーバに替わって、Microsoft Azure 上で動作する Web アプリとし、年間保守管理費用を削減できる。：310万円→190万円

■動作速度について

データベースに SQL DB を利用することで、迅速な動作・レスポンスが可能となる。

■インプットおよびアウトプットサイト

販売会社および関係省庁向けサイトでは、検索画面をなくし、症例の一覧とすることで、自由に迅速な検索が可能となる。

■その他

パッチテスト入力画面を現状に即したものにします。

事務局管理の充実：SSCI-Net 事務局での掲示情報変更領域の拡大

5. 情報発信活動

・ News Letter の発行

毎月 10 日に発行し、延べ 12 回に亘り時宜に即した情報を関係者へ配信しました。理事以外の皮膚科医（飯島茂子先生：はなみずきクリニック）や松永理事長の AMED 研究に参加する賛助会員企業（今井教安氏：㈱コーセイ）にも寄稿を依頼しました。

・ 特定成分に関する皮膚障害症例発生件数の回答

昨年度より、賛助会員企業からの特定成分による陽性症例数の問合せ実績を確認しています。本年度 32 企業より 72 成分の問い合わせがありました（昨年度：35 企業、128 成分）。成分数は減っていますが、企業数は変わらないことから、市販後情報の一環として認知されてきたと思われます。

成分の陽性情報問い合わせ実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
企業数	3	0	2	2	1	7	3	1	3	3	4	3	32
成分数	10	0	15	2	1	13	5	1	3	8	5	9	72

成分に関する情報を提供するためには、皮膚科医の先生方に製品の原因成分を特定いただく必要があります。コロナ禍で、成分パッチテストの実施が以前より難しくなっておりますが、SSCI-Net では皮膚科医の成分パッチテストをサポートする活動にも尽力していきたくと考えています。

6. 産学官連携活動

第17回および第18回化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会は、いずれも新型コロナウイルス感染が落ち着かず、オンライン会議形式で開催致しました。

・第17回連絡会は、2021年5月26日に開催し、38名（理事を含む）にご参加いただきました。SSCI-Netより、全領域の2020年度登録症例の概要およびトピック2題（紙製品に含まれたロジンの症例、3-0-エチルアスコルビン酸による登録症例情報の更新）の他に、「令和2年度NITE皮膚障害関連実績（製品評価技術基盤機構 佐々木和実先生）」および「家庭用品中の皮膚感作性物質の実態調査の紹介（国立医薬品食品衛生研究所 河上強志先生）」の共有化もしていただきました。また、ちょうど新型コロナワクチンの副反応が社会的に話題となり、副反応（アナフィラキシー）と化粧品にも汎用されているPEG（ポリエチレングリコール）との関連性が懸念されていたことから、現状と考察について情報共有致しました。

・第18回連絡会は、2021年12月8日に開催し、40名（理事を含む）にご参加いただきました。SSCI-Netより、全領域の2020年度登録症例の概要およびトピック2題（点眼液、家庭用品）の他に、厚生労働科学特別研究事業「感染症対策をうたう家庭用除菌剤等の実態、健康被害および規制状況調査の成果概要（国立医薬品食品衛生研究所 河上強志先生）」および「令和3年度NITE皮膚障害関連実績（製品評価技術基盤機構 佐々木和実先生）」の共有化もしていただきました。また、Solvent Orange 60含有メガネフレームによる皮膚障害が現在も続いていることが問題提起され、厚労省化学物質安全対策室からも、現状を再整理する旨の発現をいただきました。本件に関しては、この後、経産省より福井県眼鏡協会を紹介していただき、眼鏡材料の製造業者の啓発のため、月刊眼鏡（2022年4月号）への記事掲載につなげることができました。

・家庭用品に係る症例の月次報告

“厚労省家庭用品に係る症例情報の提供”（受託業務）に合わせ、毎月14日までに前月分の家庭用品に係る症例の登録製品について、報告を実施しました。なお、2020年度に関しては、以下に「家庭用品に係る健康被害の年次とりまとめ報告」が公開されています。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11124000/000758402.pdf>

7. 学術活動

SSCI-Netで収集された症例情報の研究成果の関係学会発表および雑誌投稿
例示)

第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会 2021.11.26-12.28 東京（京王ホテル：ハイブリッド開催）

「SSCI-Net2020 年度アレルギー性皮膚障害例のまとめ」 松永佳世子

「Japanese baseline series (JBS2015) の 2020 年度の陽性率」

峠岡 理沙 (京都府立医科大学/接触皮膚炎研究班)

論文掲載：「SSCI-Net 症例情報に基づく職業性アレルギー性接触皮膚炎・アレルギー性接触蕁麻疹の原因と対策」、松永佳世子、日本職業・環境アレルギー学会雑誌 28 巻 2 号、25-37(2021)

8. 成分提供仲介状況

成分試料の提供等の産学連携に関しても、臨機応変に企業および省庁と連携し、皮膚科への詳細な情報提供と迅速化に努めました。成分試料の提供等の支援に関しては、日本皮膚免疫アレルギー学会ホームページの有益情報サイトに掲載され、SSCI-Net 活用の有用性を認識いただき、症例登録も積極的に行っていたけるようになった事例がありました。皮膚科医への SSCI-Net 活用の有用性のアピールがまだ不足していることを感じました。

(仲介実施数 2019 年度：30 件、2020 年：30 件、2021 年度：31 件、)

9. SSCI-Net 関係者内に限定した医療施設紹介

本年度は、3 例の紹介依頼がありました。そのうち 1 例は対応が難しそうな症例で、事前に紹介医師に状況を説明して打診した結果、お断りがあり、企業もそれ以上の紹介を望まなかったため、終了と致しました。他の 2 症例のうち、1 症例は完了、1 症例は継続中です。

医療施設紹介制度は、SSCI-Net の制度として、特に企業様より定期的な打診をいただいています。

10. 役員人事に関する調整

・本定時社員総会が、理事の任期 2 年満了の年にあたるため、理事に継続依頼を行った結果、全員より、重任の内諾をいただきました。